

# 行政視察等報告書

令和7年12月22日

境港市議会  
議長 永井 章 様

会派名 きょうどう  
代表者 岡空 研二

下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 観察等期間	令和7年11月12日（水）～令和7年11月14日（金）
2 観察等先及び内容	<p>11/12から3日間にわたり、千葉県船橋市、東京都文京区、神奈川県横浜市鶴見区において、下記の項目について調査研究を実施した。</p> <p>記</p> <ol style="list-style-type: none"><li>「船橋市南部清掃工場」において、船橋市環境部 中西 学部長、齋藤正宏課長、亀井千寛施設係長より、軟弱地盤でのごみ焼却場の建設にあたっての留意点等伺った。</li><li>文京区「TOPPAN 株式会社」において、世田谷区 石井貴和係長、TOPPAN 株式会社 西田課長、松永課長より、世田谷区が実施している「将来の職員不足を見据えて行政民間連携による業務改革」の内容について、委託するに至った経緯や成果、委託する側、委託される側の問題点や課題など伺った。</li><li>JFE エンジニアリング株式会社「グローバルリモートセンター」において、ゴミ焼却プラントの遠隔監視の状況を視察した。</li></ol>
3 観察等議員	岡空 研二、森岡 俊夫、柊 康弘、平松 謙治
4 総 経 費	合計（4名） 297,200円 （一人当たり74,300円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

別紙

11月12日視察

令和7年11月12日（水）14：00～16：00

内容 千葉県船橋市「船橋市南部清掃工場」

埋め立て地に建設したゴミ焼却場の問題点について

担当者 船橋市環境部 中西 学部長、環境部資源循環課 斎藤正宏課長、

環境部資源循環課 亀井千寛施設係長、施設係 高林 篤技師

所見等

○視察内容

船橋市南部清掃工場は、船橋市三番瀬に造成した埋め立て地に令和2年4月より稼働する全連続式ストーカ式のゴミ焼却プラントで、船橋市南部地域の住民の生活を支えている。現在西部広域行政管理組合で計画されている米子市彦名地区での建設地域と同様、埋め立て地という軟弱地盤に建設されていることから、その建設にあたっての留意点や注意点などを伺った。

○質問事項

①建設地が埋め立て地という軟弱地盤での建設への懸念はなかったのですか。

（答）旧南部清掃センターが、同じ埋め立て地内に建設されており、東日本大震災でも問題がなかったことから、同地域を選択した。

②建設地の選定について、専門家と意見調整されたのでしょうか。

（答）建設地の意見調整はなかったが、建設にあたって、工事のあり方等についての助言はあった。

③その内容はどのようなものですか。

（答）基礎工事施工は、水辺であることから、浸水対策や強度対策を十分に講じる必要性の支持を頂いた。

④津波対策はどのようにされているのでしょうか。

（答）強度対策同様、津波への対策として基礎を嵩上げし、通常2Fの高さにプラットホーム設置し、焼却プラント及び主要な電気施設は3Fくらいの高さに建設しており、津波には十分対応しうる高さに建設した。

⑤ゴミの焼却は、民間委託されているのですか。

（答）建設にあたっては、DBO方式により、一般競争入札を実施して、オペレーションは民間に委託している。

⑥安全対策についての留意点は何か。

（答）オペレーションを民間委託していることから、24時間365日現場での確認に加え、遠隔監視体制がとられており、万全な安全体制が確立されている。

⑦会議室でレクチャーを受け実際の焼却炉の状況等現場視察を実施した。

(所感) 発生する熱エネルギーで発電し、資源・エネルギーの有効活用が図られ、最新の技術の導入により、公害防止基準より厳しい数値を設定し、環境負荷の低減に努められていた。また、見学フロアでは、市民がゴミ処理について楽しく学ぶことができ、津波の際の一時避難所として、約750人収容可能な避難用スペースが確保されており、安心・安全はもとより、地域と調和のとれた親しみやすい施設であると感じた。

米子市彦名地区で計画中のゴミ焼却施設についても、「船橋市南部清掃工場」のようにエネルギーの有効利用や万全な環境対策に加え、市民生活を支える安心・安全な施設が建設されることが、西部広域行政管理組合の構成員である本市の役割は、これまで以上に非常に重要であることを再認識した。

(報告者 森岡俊夫)

11月13日視察

- ・日 時 令和7年11月13日（木）10：00～11：30
- ・場 所 TOPPAN株式会社会議室
- ・対応者 世田谷区 子ども若者部保育認定・調整課入園担当 石井貴和係長  
TOPPAN株式会社 情報コミュニケーション事業本部 西田賢治課長  
TOPPAN株式会社 中四国事業部 松永 武課長
- ・内 容 世田谷区が実施している「将来の職員不足を見据えて行政民間連携による業務改革」の内容について、委託するに至った経緯やその成果と委託する側、委託される側の問題点や課題について伺った。

#### ・委託するにあたった経緯

コロナ渦の影響もあり、保育料無償化や待機児童の問題など業務量が増えるとともに業務の中身も多様化・複雑化してきた令和4年には、時間外手当の実績が約1.8倍に拡大した。このような状況下で、将来的な人員不足を踏まえ、世田谷区では、アウトソーシングの検討範囲を拡大し、「新たな行政経営の移行実現プラン」を策定した。

区では、保育園事務の業務量増加への対応として、定額給付金で委託実績のあるTOPPAN株式会社への外部委託を決断した。

#### ・委託後の結果

窓口でできた確認がシステムを介すると確認できないことが出てくるなど逆に業務量が増えたりしたことから、業務改善と並行して委託業務を一体化させ、単純なアウトソーシングにならない新しい業務スタイルをTOPPAN株式会社から提案した。結果として、委託側と委託される側が、同じ目的で同じ方向に向き合う協働スタイルが確立された。

今後の課題

本市においても、将来的な人員不足は避けられない状況にあり、人員が減少しても行政サービスを維持し、サービスの質の向上を図るためにも抜本的な業務の見直しとともに業務の民間委託を真剣に検討しておかなければならぬと感じました。世田谷区のように本当に切迫した状況下でTOPPAN株式会社から提案された、将来のデジタル化を含めた業務改善を伴う業務委託は、「新たな行政経営の移行実現プラン」の方針と合致するものであったことがそうしたと考えられます。行政側も将来を見据え業務改善を一貫とした基本方針を定めておく必要を感じました。何も考えを持ち合わせていないと民間委託は実現しないと思います。

(報告者 森岡俊夫)

#### 11月14日視察

- ・日 時 令和7年11月14日10:00から11:30
- ・場 所 JFEエンジニアリング株式会社 鶴見製作所  
グローバルリモートセンター（以下、GRCという。）
- ・対 応 者 JFEエンジニアリング株式会社 環境営業室 酒井慎一室長

#### 視察内容

◆11月12日視察した船橋市南部清掃工場を含め全国のゴミ焼却プラント工場の情報を一括管理するGRCの機能や特徴について伺った。

●GRCでは、ゴミ焼却プラントだけでなく、バイオマス発電プラント、太陽光発電プラント、水処理プラントなど国内外のプラントを遠隔監視・操業支援・保守サービスを総合的に行っています。海外プラントの操業支援については、フィリピンマニラにGRC分室を設置し、迅速な障害復旧のサポートを行います。

当日は、船橋市だけでなく、鳥取市のゴミ焼却炉の燃焼状況なども前面パネルに映し出され、炉内の温度状況や温度管理をリモートで管理している状況を確認することができました。GRCは、AIビッグデータ基盤を備えた次世代のプラント監視拠点となっています。AIとビッグデータ解析で最適な操業（温度管理）や設備診断、自動運転、予兆診断でトラブル回避や不具合対応が迅速に対応できるとのことでした。社会インフラを支える重要拠点であるGRCは、サイバー攻撃などの脅威に対応し、安全な遠隔運転支援を行っています。フィリピンマニラの分室でも遠隔運転が可能なことから、より万全な安全管理が施されています。

(考察) 現在計画中の西部広域行政管理組合のゴミ焼却プラントにおいても、同様の遠隔管理システムにより、より安全な運転管理が実施されることで、住民の安心・安全につながるものと思われます。今後の正副管理者での検討においても、このように安全管理体制が充実しているプラント企業の技術を導入してもらいたいと考えます。

(報告者 森岡俊夫)